



新入組合員
特集号

じちろ5

自治労中央機関紙

発行所

全日本自治団体労働組合
東京都千代田区六番町1
TEL 03(3263)0273
FAX 03(5210)7422
定価一部30円1年間900円
(組合員の講読料は
組合費の中に含む)

かけがえのない 仲間と共に

～労働組合が人と人をつなぐ～

2～3面は
特別座談会



津田 大介さん × 若手組合員

考えよう! これからの
自治体職員の
働き方

労働組合には多くの働く仲間が集まっています。

職場や職種を超えて、多くの人とのつながりを持てることが、
組合活動に参加する最も大きな意義です。

新たに社会人としての第一歩を踏み出したあなた。

きっと不安もあると思います。

そんな時、組合がこれまで築いてきた「つながり」があなたを
きっと助けてくれます。

今日からあなたもかけがえのない仲間の一人です。

自治労とは？

私たち自治労は、全国の地方自治
体や公共サービス関連職場で働く仲
間が集まる労働組合です。

全国の都道府県庁、市役所、町村
役場、公立病院、保育所、福祉関係
職場、公社・事業団、公共交通など、
地域の公共サービスを担う職場で働
く80万人以上の仲間が集まっている
組織です。

他にはない 自治労の強み

自治労の強みは、現場の最前線に
組合員がいることです。多様化する
住民ニーズや現場で起きている課題
を様々な場面で共有化し、解決にむ
け取り組んでいます。

これからも私たちはこの「現場力」
を活かし地域や社会に貢献していき
ます。



夏に開催される自治労定期大会

地方の勤と自治体職員の仕事



就職おめでとうございます。今号はジャーナリストの津田大介さんと皆さんの先輩（若手組合員）に集まっていたいただき、これまでの経験や組合活動について対談していただきました。今は不安な気持ちもあると思いますが、この中これから働いていくヒントがあると思います。

なぜ自治体職員なのか？

津田 皆さん、こんにちは。本日はよろしくお願います。早速ですが、自己紹介からお願いします。

植田 植田如美です。名古屋市交通局の営繕課で設備係を担当しています。地下鉄のさまざまな設備を新設しており、最近は可動式のホーム柵の設置に携わっています。

三田 滋賀県の野洲市に勤めております。三田拓史です。野洲市での勤務は1年目ですが、以前は大阪の摂津市に勤務しており、その前は民間にも勤務していました。

中山 中山阿悠美です。福岡県大野城市に勤務しており、現在入庁4年目です。こども未来課という部署で

主に青少年の教育を担当しています。子どもたちをキャンプに連れて行ったり、昨年はオーストラリアでのホームステイも行ったりました。市の青少年育成計画の策定にも関わっています。

津田 私も自己紹介してきます。私は実は公務員どころか会社にも勤めたことがないので、職場での働き方の難しさが分かりません。一方で、公務員や自治

労などの労働組合はとも身近な存在でした。母がかつて公務員で組合活動をやっていましたし、父親は組合の専従をやっていたこともあり、家によく組合員の人遊びに来ていて、組合は大変身近な世界でし

た。今日は、皆さんのいろいろな話を聞かせていただければと思います。

まず、さまざまな職業がある中で、「地方公務員」という職業を選んだ理由をお聞かせください。

植田 公務員を就職の選択肢に入れたのは大学4年の時でした。私は理系なのですが、理系の学生の多くは大学院へ進学し研究の道を選びます。私も当初はそう

思っていました。でも、自分の将来のライフプランなどを考えた時、研究職は一旦前線から引いてしまうと復帰が難しいイメージがありました。そこで研究職に近い分野で多くの人に影響を与えられる仕事と考える、公務員の技術職として働くことを選びました。

三田 私は、民間と公務員の両方を考えながら就職活動をしていました。その結果、銀行に就職しましたが、その後鉄道会社に転職しました。ただ、自分に合わないと感じ、以前から選択肢にあった公務員をめざそうと、仕事をしながら勉強をして摂津市に入職しました。

中山 私も当初は、公務員という選択肢は全くありませんでした。私は美大に通っていたので、デザインやクリエイティブな仕事に就きたいと思っていたのですが、広告代理店やデザイン会社などを希望していましたが、就職が大変厳しい時代でした。そこで「別の世界で自分の力を生かせないか」と考えました。そうした中で、市役所の作っ

ていたものやPRの仕方が少しもったいないと思い始め、公務員の道へと方向転換をしました。

公務員って実はこんな仕事

津田 実際に入職してみたいかがでしたか？

植田 人に影響を与える仕事という意味ではイメージ通りでした。私は駅のホームに柵を設置する仕事をしています。市民の方から「助かってるよ」や「あれがあると、いいよね」という言葉を聞くと、自分の仕事に役に立っていることを実感できます。今はこの職場に入って良かったと思っています。

三田 入職前は「堅い仕事」というイメージでした。ただ入ってみると、「こんなことやっていいんじゃないか」という提案が意外と通ることに驚きました。自

分が携わっていることさえあれば、「就労支援のためにこんな内容でセミナーをやる」とか「女性むけにこんな企画がいいんじゃないか」など、担当者の裁量でクリエイティブに仕事ができることに楽しさを感じています。

中山 私も「子どもたちのために」ということだったから何でも企画して構わないということが意外でした。市役所ではできることが制限されているイメージが強かったのですが、マニュアル的でない仕事が多く、きちんと提案していけば理解されることが多いと実感しました。



つだ だいすけ 津田 大介さん

ジャーナリスト/メディア・アクティビスト、ポリタス編集長

1973年生まれ。東京都出身。早稲田大学社会科学部卒。早稲田大学文学学術院教授（2017～2019）。テレビ朝チャンネル2「津田大介 日本にプラス」キャスター。J-WAVE「JAM THE WORLD」ナビゲーター。一般社団法人インターネットユーザー協会（MIAU）代表理事。株式会社ナターシャ Co-Founder。メディア、ジャーナリズム、IT・ネットサービス、コンテンツビジネス、著作権問題などを専門分野に執筆活動を行う。ソーシャルメディアを利用した新しいジャーナリズムをさまざまな形で実践。世界経済フォーラム（ダボス会議）「ヤング・グローバル・リーダーズ2013」選出。主な著書に『ウェブで政治を動かす！』（朝日新書）、『動員の革命』（中公新書ラクレ）、『情報の呼吸法』（朝日出版社）、『Twitter 社会論』（洋泉社新書）、『未来型サバイバル音楽論』（中公新書ラクレ）ほか。2011年9月より週刊有料メールマガジン「メディアの現場」を配信中。



みた ひろし 三田 拓史

滋賀県本部
野洲市職員労働組合



なかやま あゆみ 中山 阿悠美

福岡県本部
大野城市職員労働組合

環境経済部・商工観光課に所属し、勤労者福祉、雇用対策、商業及び工業の振興、企業誘致、観光イベントの計画立案・実施など多岐に渡る業務を行っている。

大野城市役所・こども未来課に所属し、青少年の育成事業およびこどもに関する施策の推進や総合調整などを行っている。

考えよう! これからの自



津田 3人に共通していることは、働いていく中で楽しみを見出していくという点だと思えます。公務員という自分のできる裁量が少ないようなイメージがありました。意外と自由度が高い職業なのですね。それでは当初、労働組合に対してどのような印象を持っていましたか?

植田 労働組合という響きから「学生運動」や「ストライキ」というイメージしかなかったんですけど、採用された時、親に「組合に入って方がいいの?」と聞いたら、父から「もちろん入った方がいいよ」と言

自治労に入ってみて



三田 私の場合は、民間にいた時から組合に入っていました。「皆さん入るものですよ」という感じの説明で加入しました。ただ、当時から「労働者を守ってくれ存在」というイメージを持っていました。

中山 正直、入ったけど何をしていいかわからないという印象でした。とくに1年目は自分の仕事をこなすだけで精一杯で、賃金や労働条件まで考える余裕はありません。でも4〜5年目になってくるとそ

うしたことも考えられるようになり、その時初めて、組合という開ける場があった良かったと思いました。津田 では、自治労に入っ

て良かったことやイメージなどを教えてください。植田 組合活動を通じて良かったと思うことは「顔が広がる」ことです。通常の仕事の中では会えないような人とも知り合えることで、新しい知識や情報を得ることが出来ます。中には、横のつながりから得られる情報が上から降りてくる情報と違って、

新たな一歩を踏み出す皆さんへ

津田 最後に、これから公務員として働く新入職員の方へエールをお願いします。

植田 「顔見知り」を増やすことはとても重要です。少し言いにくいことも、「ちょっとお願いします」と言えることで仕事が円滑に進むことが多くあります。その顔を広げる手段として「組合」はとても役に立ちます。また、普通だったら会えない人と話すことで自分の考え方も広がり、仕事もプライベートも充実してきます。組合活動を通して、通常歩んでいく公務員人生の中の所々に「違い」が起き、それを経験することは大きなプラスになると思います。

中山 最初は漠然としたイメージしかないと思いますが、自治労に入ることです。今は当たり前のように享受していますが、今後は自分も築く側に立たなければと思います。

とさまざまなことを話せました。他の自治体を知ることが仕事にも還元されるし、自分の仕事のやり方にも影響を与えてくれると思っています。津田 やはり人は楽しそう



うえだ なおみ 植田 如美 愛知県本部 名古屋交通労働組合

技術職として駅の設備設置を行っている。エレベーターや可動柵を設置し、住民が安全に駅を利用できるよう業務を行っている。

サイン本プレゼント 抽選で10名様

『テレビ・新聞・ネットを読む技術』

著者：津田大介 池上彰 発行：株式会社 KADOKAWA

マスメディアでのニュース解説でおなじみの池上彰さんと、ウェブメディア界の寵児とうたわれる津田大介さんが、日本の「テレビ・新聞・ネット」について、徹底解説。世にあふれる数多の情報を読み取る目を養い、事実を正しく知るために必読の一冊です。



津田大介さんのサイン入り本を、抽選で10の方にプレゼントします。所属組合、住所、電話番号、お名前(ふりがな)、本紙の感想を明記の上、ハガキでご応募ください。応募は1人1回限りです。

締切 2017年5月末日消印有効

宛先 〒102-8464 東京都千代田区六番町1自治労会館3階 自治労本部 総合企画総務局「サイン本」係

発表 当選者は、発送をもって発表に代えさせていただきます。